【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公開番号】特開2010-163738(P2010-163738A)
【公開日】平成22年7月29日(2010.7.29)
【年通号数】公開・登録公報2010-030
【出願番号】特願2010-44513(P2010-44513)
【国際特許分類】
Ｄ０６Ｎ　7/04　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　7/02　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/00　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/10　(2006.01)
Ｅ０４Ｆ　13/07　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０６Ｎ　7/04
Ｂ３２Ｂ　7/02
Ｂ３２Ｂ　27/00　Ｅ
Ｂ３２Ｂ　27/10
Ｅ０４Ｆ　13/00　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月30日(2010.3.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
本発明は裏打材上に化粧樹脂層、表面張力が４０ｍＮ／ｍ以下であってポリエチレン、ポリプロピレン、ポリブテン、ポリスチレン、ポリブタジエン、ポリイソプレン、ポリメチルメタクリレート、メチルメタクリレート系共重合体、アクリロニトリル、ポリ塩化ビニル、ポリエステル系樹脂から選ばれる１種以上の樹脂を樹脂成分とする表面樹脂被覆層を順次備える壁紙であることを特徴とし、さらに、裏打材の横方向の水中伸度を１．３％以下とし、且つ裏打材のサイズ度を７０秒以下とすることを特徴とする。
また本発明の壁紙は、積層後の表面樹脂被覆層の表面張力が４０ｍＮ／ｍ以下であることを特徴とし、さらにまた表面樹脂被覆層にエンボスを付与し、エンボス後の表面樹脂被覆層の表面張力が４０ｍＮ／ｍ以下であることを特徴とする。
そして、本発明の壁紙をでん粉系接着剤で壁下地に貼りつける工程と、貼りつけられた壁紙に付着したでん粉系接着剤をふき取る工程を有する、壁紙の施工方法であり、またその貼りつけられた壁紙に付着したでん粉系接着剤をふき取る手段を有する、壁紙施工におけるでん粉系接着剤の除去方法である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明の汚れ防止壁紙に用いられる表面樹脂被覆層は、表面張力が４０ｍＮ／ｍ以下、好ましくは３５ｍＮ／ｍ以下の樹脂が使用できる。また表面樹脂被覆層を多層にしてもよ

く、その場合は最上面に用いられている樹脂の表面張力が４０ｍＮ／ｍ以下であることが好ましい。表面張力の測定方法は、固体表面の表面張力は直接的に測定できない為、ＪＩＳ Ｋ６７６８ ポリエチレン及びポリプロピレンフィルムのぬれ試験方法に準じ、予め表面張力が判っている標準液を用いて測定する。その標準液が濡れた時の液の表面張力値を表面張力とした。

表面張力が４０ｍＮ／ｍ以下の樹脂としては、中密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリブテン、ポリスチレン、ポリブタジエン、ポリイソプレン、ポリメチルメタクリレート、メチルメタクリレート系共重合体、アクリロニトリル、ポリ塩化ビニル、ポリエステル系樹脂、フッ素系共重合体等が挙げられる。中でも汚れ防止性とエンボス絞の再現性を両立させる上でポリプロピレンが好ましい。又、この表面被覆層に使用する樹脂は１種あるいは２種以上の樹脂を混ぜ合わせても良い。表面張力を４０ｍＮ／ｍ以下にすることで壁紙表面に付着したでん粉系接着剤による汚染が抑えられる。さらに表面張力を３５ｍＮ／ｍ以下にすると、エンボス谷部への付着等が抑えられ僅かな水洗浄でも接着剤を簡単に除去できる。尚、表面張力が４０ｍＮ／ｍを超えた場合、でん粉系接着剤が表面やエンボス谷部に残留しやすくなり、カビの発生や接着剤の分解等により変色現象が発生し、外観上好ましくない。